



## 会長就任挨拶

北海道生活協同組合連合会

会長理事 中島 則裕

このたび、先般の通常総会に続く理事会において、会長理事に就任いたしました中島則裕です。

就任にあたり、まずは、長きにわたり会長を務められ、「協同組合ネット北海道」の設立や「ほっかいどう若者応援プロジェクト」の発足など、協同組合連携をリードされ、平和をはじめ社会課題の解決に多大な貢献をされました麻田前会長に心より敬意を表します。また、山口前副会長にも多大なるご貢献をいただくとともに、公私ともに大変お世話になりました。お二人に紙面をお借りして、感謝申し上げます。

今、持続可能な社会に向けて、気候変動、貧困、災害などの共通課題に対しグローバルな協働を進めている一方で、ウクライナ侵攻や米中対立などにより、分断化が進む懸念が広がっております。

協同組合は「共通の利益を形にするという思想と実践」が評価され、ユネスコの無形文化遺産に認定されました。「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」と決定のコメントにあります。

そうであるがゆえに、さらなる役割発揮が期待されていると思いますし、気候変動、貧困、格差など協同互助の精神に基づく協同組合だからこそ解決の気運と実現性を高めることができると思います。

また、多くの企業や団体が、持続可能な成長に向けて「ダイバーシティ（多様性）・エクイティ（公正性）&インクルージョン（包摂）」の重要性を唱え、具体的な取り組みを進めております。これも、協同互助、

公正、誠実を掲げる協同組合と通じるもので、この間、社会課題の解決のために進めている連携を、さらに充実させることにつながると思います。

現在、北海道生協連の会員生協（地域）の組合員総数は208万人（世帯）となり、道内総世帯数の74%と、大変多くの方々にご加入いただいております。その中でも、コープさっぽろが大きなウエイトを占めておりますので、引き続き、暮らしを支える活動、社会課題を解決する活動を、リードしていただきたくよろしくお願いいたします。

北海道生協連は、会員生協、他の協同組合との連携調整を進めることで、活動の広がりや充実にご貢献して参ります。あわせて、この間、生活が困窮する学生に食料などを支援する「ほっかいどう若者応援プロジェクト」の活動を、学生が社会貢献活動に参加し自らも成長できる「ほっかいどう若者応援★学生PJ」の活動に更新、「こども食堂北海道ネットワーク」の事務局活動では、民間企業との連携を広げるなど、北海道生協連がリードする活動の進化が生まれておりますので、一層強化して参ります。

この様に、会員生協をはじめ協同組合間、他団体連携の調整役、そして、子ども食堂や大学生応援ではリーダーシップを発揮することで、会員生協の事業の発展、北海道の社会課題の解決にご貢献して参りたいと思います。

会員生協の皆様のご意見をしっかりといただきながら、北海道生活協同組合連合会の活動を進めて参りますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。



## 就任役員挨拶



**理事 齋藤 真廣 様**  
(北海道大学生生活協同組合 専務理事)

この度、北海道生活協同組合連合会の理事に就任しました北海道大学生生活協同組合専務理事の齋藤真廣です。2020年から始まった新型コロナウイルスの感染拡大で

は、北大生協や北大生の経済が大きな打撃を受けました。しかし、北海道生協連からの数回にわたる食糧支援により、数多くの学生が学業を継続することができたと感じています。この場をお借りして感謝申し上げます。

今後は私自身も会員生協様と共に、様々な活動に尽力してまいりたいと思います。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



**特定監事 紺谷 ゆみ子 様**  
(生活協同組合コープさっぽろ 監事)

この度、北海道生活協同組合連合会の監事に就任させていただきます生活協同組合コープさっぽろ監事の紺谷と申します。

コープさっぽろの監事には昨年の6月に就任したところであり、何分経験不足ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

これまで一番長く在籍していたのは北海道庁であり

まして、その間、道内地域の振興等にも携わってまいりました。

大きな可能性を持ちながらも、現在厳しい状況に置かれている道内の各地域にとって、今後生活協同組合の果たす役割は増々大きくなっていくものと考えております。

監事という立場から、微力ながら北海道の生活協同組合・生活協同組合連合会の発展のための一助となれればと思いますので、何とぞ皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



**監事 田端 一徳 様**  
(大学生協事業連合北海道地区 常務理事)

この度、北海道生活協同組合連合会の監事に就任しました大学生協事業連合北海道地区の田端一徳です。この5月まで北見工業大学生協に4年間ほど勤務しておりました。様々なご支援やご協力をいただきましたこと感

謝申し上げます。この4年間の大半はコロナ禍で過ごしたことになります。苦しい時期もありましたが、ようやく学内にも学生たちの声に戻り、3、4年生はこれまでの学生生活を取り戻すかのように、また1、2年生はAfterコロナの時代の新しい学生としてそれぞれ大学生活を楽しんでいるようです。学生たちの支援に留まらず、北海道の生協運動の発展に監事という立場で関わらせていただければと思います。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



**監事 高宮 正巳 様**  
(北海道勤労者住宅生活協同組合 常勤理事)

この度、北海道生活協同組合連合会の監事に就任させていただきました。北海道勤労者住宅生活協同組合 常勤理事の高宮正巳と申します。

長年勤めてまいりました北海道労働金庫からの出向となり、何分不慣れなことばかりではございますが、共通している協同組合組織としての社会的役割を見失うことなく精一杯職務を全うしていく所存でございます。

ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



# 会長退任挨拶

北海道生活協同組合連合会  
前会長理事 麻田 信二

14年間の長期にわたり、協同互助の精神に基づき「平和で安心して暮らせる地域の実現」に取り組む道生協連に関りを得たことは、私の人生の大きな喜びとなりました。これひとえに、コープさっぽろをはじめとした会員生協のご理解とご協力、専務理事（伊藤・前川・山口・平）の下での道生協連職員の頑張りに支えられた賜物であり、心から感謝している所です。

また、北海道労金やJA中央会など協同組合の理念を共有する団体はもとより、消費者協会やNPO法人などとの連携の中で、道生協連の活動が大きく進展することが出来、感謝の気持ちでいっぱいです。

この間の活動を振り返って見ますと、北海道労金との災害支援の協定締結、賀川豊彦献身百年を記念する行事の開催や神戸の賀川豊彦記念館訪問、北海道労金・JA中央会・道生協連の三者で話し合いを重ね設立することが出来た「協同組合ネット北海道」、こども食堂北海道ネットワーク支援取り組みの大きな進展、大学生協との綿密な価格調査に基づき経産省を動かすことが出来た高価格LPガス課題への取り組み、ほっかいどう若者応援★学生プロジェクトなど、道生協連の活動は大きな拡がり持ってきました。

また、道生協連会長として、2011年3月の東日本大震災による東京電力福島第一原発事故を契機に発足した「さよなら原発1000万人アクション北海道」の呼ぶかけ人になり、脚本家倉本聰氏、北海道がんセン

ター西尾正道名誉院長、北星学園大学名誉教授小野有五氏と活動を共にしたことや北海道原爆被爆者協会からの要請を受け核兵器廃絶に向けて「ヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会」呼び掛け人の共同代表に就くなど市民運動にも携わることが出来ました。

ロシアプーチン大統領の専制政治の下でのウクライナ侵略戦争や習近平国家主席の中国の軍事大国化、北朝鮮の核兵器開発問題など国際情勢が揺れる中、日本では国政選挙での投票率が低く、民主主義を維持発展し平和な世界を作ることの難しさが浮き彫りになっています。

世界は、人口の増加と産業活動により地球環境は危機的な状態に陥りつつあり、加えて、人工知能（AI）や遺伝子組み換え技術など科学技術の著しい発展と真偽が確かでない溢れる情報に囲まれており、人類の進化が追い付かないような状況になりつつあり、ユネスコの世界無形文化遺産になっている協同組合の歴史に学び、現実を直視することが重要と思っています。

後任になった生協事業に精通した中島則裕氏の下、会員生協はもとより、協同組合ネット北海道の会員や消費者協会、NPO法人などとの連携により、道生協連の一層の発展を期待しているところです。

お世話になりました大勢の皆様へ深く感謝申し上げ退任のあいさつといたします。ありがとうございました。





## 退任役員挨拶



北海道生活協同組合連合会  
前副会長理事 山口 敏文

私と生協との関わりは畜大生協の組織部の活動の2年を加えると53年にもなります。事務所に掲げられた賀川豊彦さんの「理想は高き行いは低きより」「未来は我々のものなり」の文書に感動をしました。

そのことが、酪農家を目指して畜大の別科に入学したのを変えたきっかけになりました。

最初の就職先は室工大生協で調理師、5年後に畜大生協の専務理事に就任しました。

1970年代の大学生協のスローガンが「学園に広く深く根ざした生協づくり」、コープ十勝での「地域と共に」「組合員と共に」「職員と共に」が私の生協活動の指針になりました。

私にとって30年間続いたコープ十勝のコープさっぼ

ろとの組織統合は、難しい判断でしたが、三浦理事長に相談したら「君の判断でいいよ」と賛成を頂きました。多くの組合員さん、職員の不安な声がだされていましたが、2年間かけて合意を頂きました。コープ十勝の統合によって北海道の生協が一本化したことは、大きな力になったと思います。

私は、数年を除いて北海道生協連の理事、監事を長くやらせていただきました。今はお亡くなりの方の河村理事長さん、平田理事長さんから様々なアドバイスを頂きました。

専務理事として北海道生協連での3年間「こども食堂」「協同組合連携」「LPガス問題」に新たに取り組みましたが、私の役割は「問題の発見と火をつけた」のだと思います。

今後、北海道生協連は、様々な諸団体との連携の中核として「多くの組合員さん安心できる地域づくり」の役割を期待したいと思います。多くの人に支えられ「生協人」として頑張ってきたことに感謝します。



理事 小助川 誠  
(北海道大学生生活協同組合 前専務理事)

このほど、理事を退任することになりました。理事在任中は、皆さまには大変お世話になりました。北海道生協連には、LPガス事業の料金の透明化・取引適正化

への取組み、コロナ禍で困窮する一人暮らしの学生に「食」の支援を行う「ほっかいどう若者応援プロジェクト」

ト」に関わることができました。「ほっかいどう若者応援プロジェクト」ではコープさっぼ様にも賛同いただき募金活動から高額の募金を贈呈していただきました。全道の活動に広がり組合員の大学生生活が安心、安全に過ごせるために多くのご支援、ご協力を賜りました。大変ありがとうございました。

未熟な点や、至らぬ点が、多々あったであろうかとは思いますが、2020年6月から4年間、本当にありがとうございました。



特定監事 須田 正樹  
(大学生協事業連合北海道地区 前常務理事)

2019年6月より2期4年間、北海道生協連の監事を務めさせていただきました。本来であれば監事として、決算関係だけではなく組織活動の点検もしっかり監査す

べきところではありましたが、力及ばずご期待に応えることができなく、大変申し訳なく思っております。

着任と同時にコロナに突入し、様々な活動が停滞(場合によっては中止)し北海道生協連としての活動も少なくなる中、ほっかいどう若者応援プロジェクトの活動を通じて、道内大学の学生に生活応援ができたことは本当に感謝しております。大学生協だけでは実現できなかった取り組みだったと思います。内向きになりがちだった大学生協に力を与えてくれたと心の底から感じています。今後とも道内の協同組合の発展に貢献していただくことを願っております。



監事 川俣 忠彦  
(北海道勤労者住宅生活協同組合 前常勤理事)

2021年6月より2年間、道生協連の監事を務めさせて頂き、皆さんと一緒に活動させて頂きましたが、今総会でその任を終え、退任する事になりました。

道生協連役員・事務局・関係者の皆さんには大変お世話になり、あらためてお礼を申し上げます。

在任中には、若者応援プロジェクト・こども食堂・LPガス等、いずれの課題もその重要性や地道な活動が必要であり、誰よりも私自身が勉強させられた思いです。

新型コロナウイルス感染拡大により、ここ数年中々活動を進められない状況ではありましたが、今後は以前にも増して協同組合の役割発揮が求められると思います。

今後の道生協連活動も、難しい局面が続くと思いますが、関係する皆さんが力を合わせ、様々な難局を乗り越えて行かれる事を願い、退任の挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。